

【キーワードは”やりがいと誇り” 野崎秀則 オリエンタルコンサルタンツ社長】

キーワードは”やりがいと誇り”



輝⁺
く処方箋

もう1つはマネジメント力だ。限られた人・お金・時間の中で最大の成果を出さなければならず、高い技術力があってもマネジメント力がなければ実現できない。プラスして推進力である情熱というものが要だ。細かいキーワードを出すとリーダーシップ、チャレンジ力、諦めないで達成する力である」

——それらを踏まえ、現場に活力と輝きを取り戻す処方箋は

野崎 秀則

オリエンタルコンサルタンツ社長

——建設コンサルタント業界を取り巻く現状と課題について

「いかに人材を確保していくかに尽きる。現象面として20歳代が入ってこない問題がある。就業環境ややりがい、報酬の問題など総合した結果としてそのような状態になっている。そこをどう解決していくかが最大の課題だ」

——建設コンサルタント業界の魅力を発信するためには何が必要か

「魅力を発信する直接の対象は、大学生、高等専門学校（高専）の学生だと思っているが、社会全体で社会インフラに対する価値を共有していかなければならない。そう考えると小中学生にも対象を広げていく必要がある。そして、子どもたちが誰に影響されるかという親御さんだ。したがって、親御さんにもわれわれの価値を分かってもらおうための地道な活動は非常に重要だ。その中で、実際に取り組んでいる内容そのものが、本当に社会に役立っているということをしかりPRできないといけない。中身を充実させていかなければならないし、分かりやすく説明するということが非常に重要になる。中身とはわれわれが取り組んでいる結果だ」

——技術者に求められる能力、資質は

「1つは技術力だ。専門特化した深い技術が必要であり、社会・地域の課題を総合的に解決する総合力、問題解決力、政策立案・事業形成力を全体として技術力と呼んでいる。

「キーワードは、やりがいと誇り。それを感じないと誰にも自慢できない。やりがいと誇りは何かというと、われわれの技術やサービスで社会に貢献できているという自負である。パートナーとしての貢献もあるし、われわれが主役として行う事業経営もある。もちろん、ベースとなる報酬や就業環境をその中で確保しなければならないのはもちろんだが、それらが総合してやりがいと誇りにつながる。就業環境の改善は待ったなしであり、絶対に行わなくてはならないが、提供している技術、サービスに価値がないのなら意味がない。両輪として回らなければ顧客からも社会からもそっぽを向かれてしまう」